

将来の夢を語ろう

京都精華大生が授業

復興支援活動として初めて

住田高校



京都府京都市にある京都精華大学の学生らが22、23の両日、県立住田高校(佐藤政則校長、生徒124人)で授業を実施した。被災地の復興支援活動として初めて行ったもので、全校生徒を対象に「将来の夢」をテーマにした対話、デジタルストーリーテリング製作を展開。学生たちは高校生に夢を持つ大切さを伝えるとともに、被災地の復興を志す生徒たちの熱意に刺激を受けていた。

夢キーワードからそれぞれの夢を確認し合う生徒と学生たち(住田高校)

同大学では昨年の東日本大震災発生以降、被災地に対する支援を展開してきた。震災から1年5カ月が経過し、今後は復興支援として学生たちが学ぶ人文、芸術系の特徴を生かす活動を検討。住田、釜石、遠野緑峰の3高校で学生たちが授業を行い、高校生たちの手紙や菓子なども届けられた。

学童クラブに50万円

オーストリアから支援

気仙2市



国際ソロプチミスト大船渡の渕上菜子会長は20日と23日、気仙2市の学童クラブを訪れオーストリアの大学講師から預かった支援金計50万円を手渡した。支援金を集めたのは、オーストリアのリンツブルクナー音楽大学で講師を務めるクノップ直子さん。オーストリアでチャリティコンサートなどにより

国際ソロプチミストの会員で、盛岡市に住む直子さんの母親が渕上会長と連絡を取り、集まった支援金の送りに先について相談。ソロプチミストの「地域社会と世界中で女性と女性の生活を向上させる」という理念のもと、大船渡市の会員で話し合い、援助を求めたい3カ所の学童クラブへ贈ることに決定した。

20日は、陸前高田市横田町のたけのこ学童クラブ(伊藤久子会長)へ、23日は、大船渡市赤崎町のこころ

と継続的にかかわりながら交流、復興支援に努めていくとした。住田高では「未来の自分を語る」住田高校生と精華大生のデジタルストーリーテリングをテーマに授業を行い、人文学部の学生と教員24人が来校。学生たちが高校生に未来の自分について語ろうと呼び掛け、話し合った内容を発表し合うことで将来の新たな可能性を見出そうと企画した。

生徒たちは事前に、将来の夢をつづる「夢作文」と自分の夢をイメージする写真10枚以上を撮影し、用意。23日の授業では生徒と学生が10班に分かれて夢について話し合い、夢のイメージや現在の興味、関心を「夢キーワード」として用紙にまとめた。

生徒たちはこのおと、学生とデジタルストーリーテリングの制作に挑戦。撮影した写真をパソコンでスライドショーとしてまとめ、夢作文の朗読を録音した。本来はこのデジタルストーリーテリングを発表する予定だったが、機材の故障などで中止に。代わりに夢キーワードを展示し、生徒と学生が一緒に見て回った。

キーワードには「服飾」「バスケット」「歌」といった日々の関心事から、「復興」「岩手から日本へ」などの被災した郷土を思う気持ちが表れた言葉までがズラリ。「人の役に立ちたい」「教師になりたい」といった具体的な夢を記したのもあった。生徒の菅野佳美さん(2年)は「夢を言っても決まっていなかったけれど、体験をしてみよう」ということをやってみよう」と再認識できた。高校の先生のように、親身で生徒にとって身近な教師になりたい」と笑顔。

授業を行った樋口太朗さん(2年生)は「ムービーを作り、上映するという目標は達成できなかったが、本来の狙いである高校生がどれだけ夢を掘り下げて深く語れるかに関しては達成できて満足している。語り合う中で生徒たちの復興に関する夢を多く見つけ、地元に対する強い思いを感じることができた」と充実した表情を見せた。

簡井洋一教授は「この取り組みはボランティアではなく、継続的な復興支援として続けていきたい」と話し、来年度以降の実施を誓っていた。

付を手渡し、宗家の意向を伝えた。華扇流は、7月に小樽で発表会を開いた際に集めた募金を同市教委へ寄贈。昨年には大船渡市芸術文化協会へも同様の寄付を行っている。この日は紀室会主が代理人として市教委を訪問し、宗家の華扇流之さんからの「踊りを通して皆さまとの心をつながりをお願いしたい」というメッセージを山田教育長へ伝えた。

大船渡市に見舞金

10万円 神戸のろうっこう医療生協を寄付

兵庫県神戸市のろうっこう医療生活協同組合は24日、大船渡市に東日本大震災の見舞金10万円を寄付した。

同組合では23日から、地域医療インターンシップで森本浩常務理事ら同組合の職員4人、ボランティアの神戸大学医学部生7人が大船渡市を訪問。見舞金は生協診療所の窓口

に手渡された。熊澤所長は「ありがとうございます。有効に使わせていただきます」と感謝の言葉を述べた。

同組合は昨年7月から12月まで同市に医療支援チームを派遣し、避難所や仮設住宅での健康チェック、仮設住宅団地に整備された集会所での血圧測定などを実施。活動期間中、神戸市内で開催されたイベントでの売上金55万円を市に寄付するなど手厚い支援で早期復興を後押ししてきた。

森本常務理事によると、今回のインターンシップでは26日まで大船渡市に滞在し、同市社協復興ボランティアセンターの指示でボランティア活動に当たっている。

盛岡市からの派遣職員死亡 陸前高田市 今年4月から陸前高田市に派遣されていた盛岡市職員が先月下旬、遠野市内で死亡していたことが24日までに分かった。自殺とみられる。

陸前高田市などによると、職員は同市水産課で勤務していた30代男性。漁港復旧業務などに携っていた。先月22日、遠野市内の路上に止まっていた自家用車内で首をつった状態で発見されたという。

陸前高田市総務課は「勤務態度は真面目で、欠勤はなかった。同じことが二度と起こらないよう、メンタルヘルスのチェックなどを引き続き行っていく」と話す。市には今月1日現在、盛岡市や県、名古屋市などから計55人が派遣されている。

住居侵入未遂の男を逮捕 大船渡 大船渡警察署は24日午前3時4分、住居侵入未遂の疑いで大船渡市大船渡町字猪頭の21(自称)、無職・下村容疑者(79)を逮捕した。

同署によると下村疑者は、同日午前3時30分ごろ、同市の社員Aさん(70)を侵入しようとしたAさんに発見され、未遂となった。

被害関係者からの報によつて事件を初見現場に駆けつけた警署が下村容疑者を現場で逮捕した。詳しい動機などは同署で調査中。

盛岡市からの派遣職員死亡 陸前高田市 今年4月から陸前高田市に派遣されていた盛岡市職員が先月下旬、遠野市内で死亡していたことが24日までに分かった。自殺とみられる。

陸前高田市などによると、職員は同市水産課で勤務していた30代男性。漁港復旧業務などに携っていた。先月22日、遠野市内の路上に止まっていた自家用車内で首をつった状態で発見されたという。

美しい舞踊披露

大船渡で

「ありがとうございました。とても元気になりました」と感謝していた。



(24日現在)

着	空席状況	
	グリーン	普通
3:56	○	○
7:16	○	○
7:36	○	○
2:28	○	○
5:24	○	△
5:24	○	△
8:28	○	○
9:24	○	○
2:00	○	○